

図3 パレスチナにおける人口動態 (1880～1950)

[*Encyclopedia Judaica* Vol. 9., p. 478; Smith, *The Roots of Separatism in Palestine*, p. 65; Porath, *The Emergence of the Palestinian Arab National Movement*, Vol. 1., pp. 17-19; Porath, *The Palestinian Arab National Movement*, Vol. 2., p. 39. などをもとに著者作成]

上のグラフからは、1880年頃にはパレスチナの総人口の5%にも満たなかったユダヤ人口が特に1930年代に急増し、1948年の建国時には総人口の約3分の1に達していた事が読み取れる。1949年にはユダヤ人口は約80万人に上昇し、アラブ人口は約16万4000人にまで激減した。かくして新生イスラエル国家はユダヤ人口が総人口の約83%を占める「ユダヤ人国家」と化したのである。

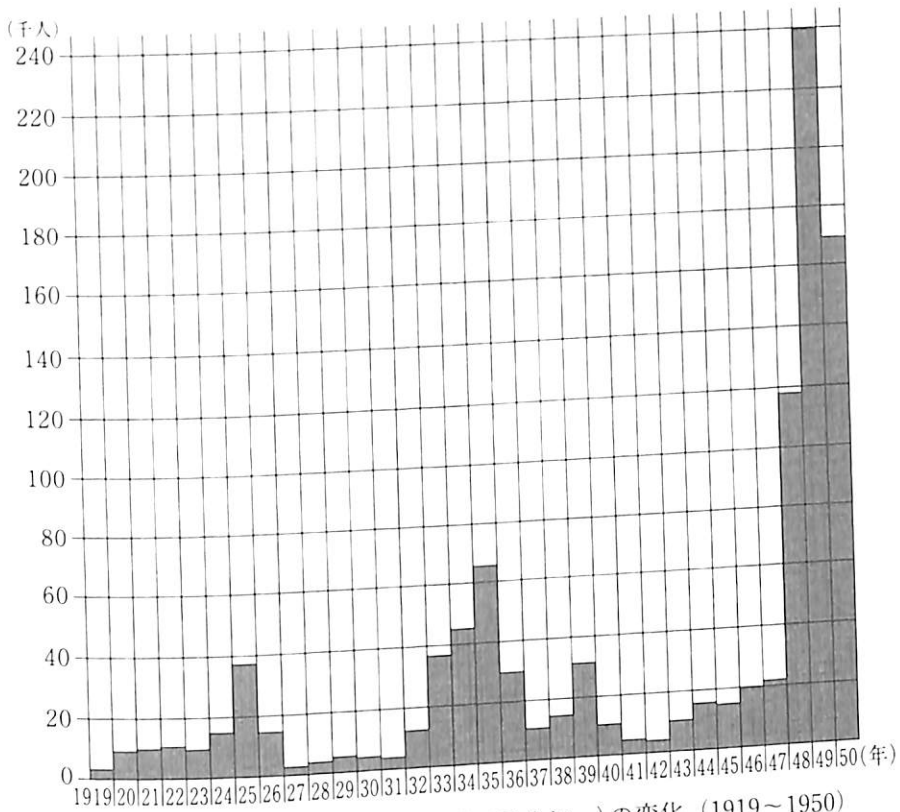


図4 パレスチナへのユダヤ人移住(アリヤー)の変化 (1919~1950)  
 [出所: *Encyclopedia Judaica* Vol. 9., pp. 473-474]

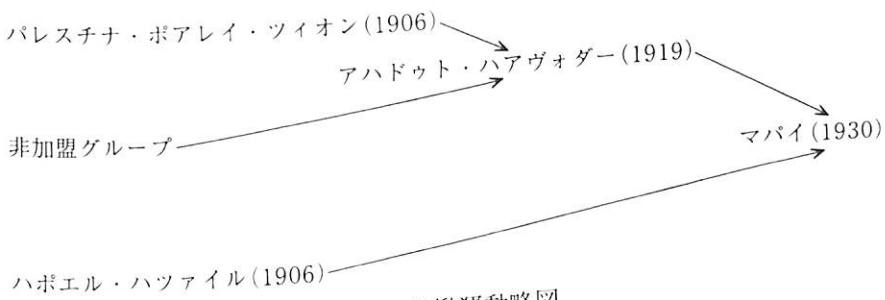


図5 労働運動略図

岩波アカデミック叢書



社会主義シオニズム  
とアラブ問題

—ベングリオンの軌跡 1905～1939—



森まり子著



岩波書店